

高校における Hearing について (高校)

さず、その両側から声を出す。

e. 鼻音

〔m〕 〔b〕の口のかまえで鼻から息を出す。

〔n〕 〔d〕の口のかまえで鼻から息を出す。

〔ŋ〕 〔g〕の口のかまえで鼻から息を出す。

f. 破擦音

〔tʃ〕, 〔dʒ〕 〔t〕と〔ʃ〕を同時に発音, にごって
〔dʒ〕

〔ts〕, 〔dz〕 舌の先端を上歯の裏に強くあてて
「つ」, にごって〔dz〕

(II) 高校における Hearing について (高校)

英語教育において hearing・speaking の重視が叫ばれながら、大学入試の圧力、教師の能力の問題、施設・設備・機器の問題等もあって、hearing・speaking の指導はおろそかにされがちなのが一般の実状のようである。本校においてもその例にもれず、hearing・speaking 面の指導が不十分であったことを反省し、今回は hearing に重点を置いて指導を行なった。

1. Hearing を Speaking と一応切り離して指導

hearing と speaking とは互に密接な関係があるゆえ関連させて指導することが望ましいと思われる。しかし、hearing と speaking とは関連させなければ指導が成り立たないということはなく、前者を後者から切り離して指導することも必ずしも不当でないことを述べている書物もあり、ポイントをしぼるため、今回は一応切り離して、hearing に重点を置いた指導を試みた。(1)

2. 予備テスト

まず、指導の手がかりを得るために、1学期末に高1(一部高2)を対象として次のテストを実施した。

a. 教科書(中2)の英文を native speaker が吹き込んだテープを3回くりかえして聞かせ、その内容を日本語で書かせた。(「資料1」参照)

b. 単語の聴別テスト

3つの単語を聞かせ、その異同を聴別させるも

の。これは本校紀要第4集に発表したものをほぼ同じものであるが、今回は native speaker 吹き込みのテープを利用した。(「資料2」参照)

c. 教科書(中1～中3)から選んだ短文をプリントし、それに各自の intonation を例のような形で記入させた。(「資料3」参照)

Ex. Supper will be ready soon.

d. 上記cの短文を読ませ、テープに録音した。

3. 予備テストの結果

前記テストの結果、次のような点が主な困難点であることがわかった。これはほぼ予想されたことであるが、改めて確認することができた。

a. Speech の Speed について行けない

「テストa」で聞かせた英語は、「資料1」にあげたごとく、活字で読めば何の変哲もないごく平易な文章であり内容であるが、耳で聞いた場合には予想以上に理解がむづかしいようである。読む場合には、理解しにくい所はくりかえし読んだり、さかのぼって訳しあげたりできるが、聞く場合にはそれができない。ほぼ正確に大意をつかんだものは14%、部分的にししかつかんでいないもの25%、ほとんど全くつかんでいないものは実に61%であった。「英語はこんなに早く読むものとは思わなかった」とか「よくまああんなに早く読めるものだと感じた」という生徒の感想に代表されるように、ほとんどの生徒が speech の speed について行けず、極めて悪い結果であった。

b. 低く弱く発音される箇所

高く強い所は聞きとりやすいが、その逆に低くしかも弱く発音される所はやはり聞きとりにくい。そしてここが聞きとれないと全体の意味が非常にとりにくい。例えば、**among them** の所はほとんどの生徒が正しく聞きとれなかった箇所であり、アマンガムと聞いて全然見当がつかなかったと述べたものが多くいた。

c. 連声 (Sandhi) ・同化 (Assimilation) の箇所 **you will** → **you'll** のような連声の箇所や、**kill him** が [kilim] のようになって assimilation の起る箇所も hearing における最大の困難点の一つである。NHKの English Hour によると、**I've never seen her before** の **seen her** が [sɪ:nə] となったり、**I met him a few days ago** の **met him** が [mɛtim] となったりして、**him** とか **her** の **h** が非常に弱く発音され、はなはだしい場合には全く発音されない場合もあり、**native speaker** できえ聴別が困難であったり全く聴別できないことがあるという。そういう場合は context から意味を判断するのだというから、生徒にとってこの聴別がむづかしいのは無理からぬことである。(2)

d. [b] と [v], [u] と [u:], [m] と [n], [l] と [r] などの聴別

聴別困難な音は、[b] と [v], [u] と [u:], [m] と [n], [l] と [r] などであった。テキスト b の結果は、全体として前回 (1958年) とほぼ同じ傾向を示したが、[u] と [u:] が聴別困難の中に入ったのは意外であった。勿論、同じ音の聴別でも、語頭にくるか語尾にくるかによって、あるいは他の音との combination によっても、聴別の難易度は変わってくる。(3)

e. Intonation

生徒は intonation や pronunciation をかなり誤って読んでいる。誤った読み方をしていると、正しいものを聞いたとき理解の妨げとなると思われる。しかし、NHKの English Hour を聞いたり(4)、教科書付属のテープとフォノシートを聞きくらべてみたりすると、英米により、また個人により、intonation にはかなりの差異が認められ、はっきりとした振り所を見出すのがむづかしく、hearing・speaking における intonation 指導の重要性は認めながらも、指導に自信が持てず、後の指導においても intonation の指導が不十分になってしまったと反省している。

4. 指導の実際

如何に優れた指導法であっても、長続きするもので

なくては成果は望み難い。語学の教育においては特にこのことが言える。長続きさせるためには、まず第1に手軽に実行できる方法でなくてはならないと考え、テープレコーダーの利用というごくありふれた方法を用いることにした。また例えどんなに高邁な理論であろうとも、実行困難な理論をこねまわしているだけで実行に移さなければ何にもならない。たとえ不十分なものであってもとにかく実際にやるのが肝要である。前記の困難点に留意しつつ、高1 (3クラス、137名) を対象にして Reader (週3時間) において次のような指導を2学期から試みた。

a. 授業での指導

(a) 毎時間 10~20 分 native speaker 吹き込みのテープを聞かせた。現在の高1の生徒のほとんどが中1~中2と Jack and Betty (開隆堂) を使用し、中3になって NEW PRINCE READERS (開隆堂) を使用している関係から、生徒に初めての教材で中2~中3程度のものをと考えて、NEW PRINCE READERS Book 2 付属のテープを利用した。

- 先ず 1 section を 1 回通して聞かせた後、3~4名に大意を日本語で言わせる (または全員にノートへ書かせる)。この段階では理解はあまり正確ではない。
- 前回わからなかったところをよく注意して聞くように指示を与えて、もう 1 回聞かせ、前回と同様に大意を言わせる (または書かせる)。
- 以上の過程を数回繰り返す。回を追うに従いわずかながらもより多くより深く理解するようになる。この間にヒントを与えることもある。
- 適当な時期に 1 sentence ずつ区切って聞かせ、その意味を言わせる。聞きとりにくい文は何回かくりかえす。

方法としては最初から 1 sentence ずつ区切って聞かせることも考えられるが、speech の speed について行く力をつけるにはやはり最初はまとめて聞かせた方がよい。

この段階で、**seen her** → [sɪ:nə], **met him** → [mɛtim] などの例を聞かせて注意したり、また [b] と [v], [l] と [r] の区別などにも触れるようにして困難点の解消に努める。

また、適当な文をまねたり、簡単な oral composition をさせたりして少しでも speaking と関連づけるように努力する。

理解を助けるために板書することもあるが、最少限にとどめるようにする。

- 全体の意味が一応理解されたところで、全体を通して 1~2 回聞かせる。

- ・ どの段階においても、テープを聞くときは熱心に静かに聞いてくれる。聞き終わったところで緊張が多少ゆるみ、わからなかったところを隣りの生徒にきいたり、あるいは聞きとれたのがうれしくてきかれもしないのに得意気に隣りに教えたりして、生徒の活発な反応が表出する。この間多少騒がしくはなるが、ひどくなければ容認している。
- (b) 毎時間の終りに、その時間に習った教科書の文を **native speaker** が吹き込んだテープを聞かせる。生徒が各自に気付いたところにアンダーラインさせる。教師の側から指摘することも勿論ある。
- (c) 教科書の各課の終りにある **Some Useful Expressions** を暗誦して来させ、以前は教師が日本語を言って英文を書かせていたのを、テープを聞いて書きとらせるようにした。少しでも多く **Hearing** に関連づけようというねらいからである。
- (d) 教科書の文だけでなく、**English Hour** や **Listen to Me!** のテープも時々まじえて聞かせる。

b. リピートカセットによる個別指導

数名の生徒をピック・アップして、**Case Study** 的にリピートカセットによる個別指導を試みた。しかし、生徒が恥かしがって寄りつかず失敗に終わった。

また、現在のところリピートカセットが1台しか学校になく中学生と共用であること、それを使う適当な場所がなく英語科研究室の一隅を利用していることにも問題があり、この点改善の余地がある。

c. 中間・期末テストに Hearing の問題を加える

従来のテストは全くのペーパーテストであり、音声面に関しては、**accent** を問うなどごく部分的なことしか扱えなかった。従って音声面のテスト及び評価が不十分であったことの反省として、多少なりとも改善するため定期テストには **hearing** の問題も加えることを予告しておいた。

また、生徒はチャッカリしていてテストや成績に関係ないことには真剣にならない傾向があるので、生徒の **hearing** に対する関心を高め、彼らが教師の指導に乗ってくるようにしたいという配慮も実はあったのである。しかし結果的にはこういった心配は杞憂であって、生徒は生き生きとして真剣に取り組んでくれたことは前述の通りである。

実施に当っては、テープレコーダーを持って各教室を回って生徒に聞かせるという方法をとった。テープは、NHK の **Listen to Me!** を録音して保存

してあるので、その中から適当なものを選んで使用した。

(a) 2学期中間テスト

中間テストに使用したものは、「資料4」に掲げたごとき内容のものである。問題の形式は、男性の **native speaker** が1 sentence を読み、次に女性の **native speaker** が同じ sentence をくりかえすという形で **text** を読む。その後で男性が質問を2回くりかえして読み、次に女性が選択肢を1つ2回ずつ読み、生徒が答えを3者択1するものである。正解者は、4問中4問20%、3問27%、2問30%、1問18%、0問6%であった。

speed はかなりゆっくりであり、3者択1であるため正答が出しやすいことを考え合せると、出来はよくなかったと言える。配点は100点満点のうち20点をこの問題に与えたが、少し多すぎたように思われる。

(b) 2学期末テスト

期末テストに使用したものは、「資料5」にあげたものであり、中間テストに使ったものの続篇である。テストの形式は次のようである。先ず女性が **text** を通して読み、ついで男性が通して読む。次に質問を、男性が先に読み同じものを女性がくりかえして読むという形で、第1問から第5問まで順次読んで行く。そして読まれた文が **text** の内容とあっていればR、違っていればWと答えるのである。

採点に当っては問題の性質上減点法をとり、誤答は正答から減点することにした。配点は前回の反省から100点満点のうち10点をこの問題にあてた。

得点	10	8	6	4	2	0
%	12	10	19	18	26	15

結果は上記の通りであるが、問1及び問2の出来がよく、問1は約95%、問2は約80%のものが正解しているが、問3~5はあまり出来がよくなかった。

相関係数は出してみなかったが、**hearing** の力と他の英語力の間にはかなり高い相関があるように受け取られる。

5. むすび

まだ指導の日も浅く途中の段階であり、はっきりとした成果が表われている訳ではないが、中間報告的な形で一応まとめてみた次第である。

更に充実した指導を目指すには、**intonation**,

stress, rhythm などについてもっと十分な指導の必要性を感じている。speaking との関連づけを考えて行く場合には特にそうである。

また、教材も文章を読んでいるものに偏らないで、実際の生きた会話をもっと多く加える必要があると思う。

教科書の進度がやや遅れるのが気になり、また努力に見合うだけの効果があるかどうかはまだはっきりしないが、以上の指導による大きなマイナス面はないと考えられ、hearing の力をつけるのに役立つほかに、次のようなプラス面があると考えられるので、反省をし、工夫を加えつつ、更に指導を継続して行く考えである。

- a. 文字中心の英語から脱して、言語の本質に即した指導に1歩近づくとともに、授業に変化を与えることができる。
- b. 生徒が本当に生き生きと活動し、真剣になる。
- c. 英語（音声）に対する恐怖感をなくすのに役立つ。
- d. 大意の把握訓練は速読の力を養うのにも役立つ。
- e. hearing の力は speaking の力につながる。
- f. 教師自身の勉強になる。教えることは学ぶことであるというが、hearing の指導をしていて自分自身が教えられ、新たな発見をすることが多く、生徒とともに勉強している毎日である。これが利点の最大なるものと言えるかも知れない。

hearing の教材は実際の学年よりも2学年くらい下のものが適当であるという説がある。さしあたり中2～中3程度の英語がほぼ正確に catch できる力をつけることを到達目標としているが、できれば高1程度の英語が catch できるところまで行って行きたいと考えている。

ただし、hearing・speaking の重視が単なる技能訓練に終わってしまって、英語教育が果す人間教育としての大切な役割を放棄してしまうことのないよう今後とも気をつけて行くつもりである。(5)

<注>

- (1) hearing と speaking の関係については、講座・英語教授法第4巻『聞き・話す領域の指導』石井正之助編（研究社）等が参考になった。
- (2) Assinilation については、English Hour（NHK FMラジオ）の「英語の音声シリーズ」“Assinilation and Dissimilation”が大変参考になった。
- (3) これに関しては、本校紀要第4集（1958年）の「聴取テストにあらわれた類似音聴別の問題点」（P P. 85～89）を参照。

(4) English Hour（NHK FMラジオ）の「英語の音声シリーズ」“発音さまざま—英米音のちがい”など。

(5) 『葦のずいから』外山滋比古著（角川書店）は、この点に関して教えられるところが多かった。

資料1 テストaの英文

Long, long ago, there lived a dragon in the forest. He came into the city every day to eat a child. Many people tried to kill him, but they were killed by the dragon.

One day some people came to the king's house. There was an old man among them. He knew how to save the city from the dragon. He said to the king, "If you give him your child, he'll go away from this country."

(NEW PRINCE READERS BOOK 2 P. 64)

資料2 テストb単語の聴別テスト

1. bought, boat, bought
2. fear, fear, hear
3. purse, purse, purse
4. sought, thought, taught
5. much, much, match
6. glass, grass, glass
7. pain, pen, pan
8. run, run, rung
9. beg, big, beg
10. sea, sea, she
11. tip, chip, chip
12. men, men, man
13. sum, sung, son
14. jeep, deep, jeep
15. deed, did, did
16. rove, rove, robe
17. raise, raise, raise
18. fool, full, fool
19. am, an, an
20. zealous, zealous, jealous
21. sow, sow, sow
22. hat, hat, hat
23. firm, firm, farm
24. mouse, mouse, mouse
25. lack, luck, luck
26. read, read, read
27. eight, eight, eight
28. win, win, wing
29. it, it, it
30. shingle, single, shingle

31. matting, matting, matting
32. batter, batter, better
33. slum, slum, slum
34. dim, dim, dim
35. ease, is, as
36. very, berry, berry
37. clothe, clothe, close[klouz]
38. could, could, could
39. seem, scene, seal
40. gyp, gyp, zip
41. call, coal, coal
42. fold, hold, sold
43. star, stir, store
44. youth, use[ju:s], youth
45. ass, ass, us
46. wrong, long, wrong
47. wait, wet, wet
48. tong, tong, tong
49. till, tell, till
50. ship, ship, sip
51. coating, coating, coaching
52. and, and, and
53. ham, ham, ham
54. dig, jig, dig
55. eat, it, it
56. van, ban, ban
57. wise, withe[waið], wide
58. pool, pull, pull
59. them, then, then
60. jest, jest, jest
61. ought, oat, ode
62. fail, hale, fail
63. ark, irk, ark
64. sing, thing sing
65. uncle, uncle, uncle
66. cloud, cloud, crowd
67. age, edge, age
68. sung, sun, sun
69. itch, etch, itch
70. seat, seat, seat
71. cheek, cheek, teak
72. lass, less, lass
73. brim, bring, brim
74. deuce, deuce, juice
75. hill, heal, heal
76. vein, vein, bane
77. tease, teethe, tease
78. wooed, wood, word

79. moon, moon, moon
80. Jew, zoo, zoo

資料 3 テスト c 及びテスト d に使用した英文

1. Who is that boy? He is Tom.
2. Who is she? She is Miss Brown.
3. What are these? They are peaches.
4. Let's row a boat after school.
5. I know that you are very kind to them.
6. Supper will be ready soon.
7. There is something white on the wall.
8. I want to get off the bus at the next stop.
9. She wants to be a pianist when she grows up.
10. I'm glad I can go with you.
11. I've known the doctor for many years.
12. Though we asked him to join us, he didn't come.
13. How often you write to your mother!
14. It was very hot yesterday, wasn't it?
15. After coming home, I learned that my mother had invited Roy.
16. The letter that we got today had no stamp on it.
17. He made me repeat the words several times.
18. He sat listening to the music.
19. She said that her son was sick in bed.
20. I wonder if he has forgotten my birthday.
21. What a beautiful picture she is painting!
22. Do you know where he lived all his life?

資料 4 2 学期中間テストの Hearing の問題

(NHK ラジオの「学校放送」"Listen to Me!"
の昭和44年10月1日, 2日放送のものより)

A Colorful Lesson (1)

All the color words of English tell us a particular color. They often have some other meanings.

When we say a person is blue, for example, what do we mean? We sometimes mean that he is blue from the cold. Usually, though, people aren't really very cold. So, when we say a person is blue, we often mean he is sad.

Have you heard the expression "Blue Monday"? On Blue Monday the sky is not always blue; why, then, are Mondays called "blue"? Because Sunday has passed and everybody must go back to work again. Don't you often

feel blue on Monday when you have to go back to school?

By the way, do you know "blues" as the name of a kind of music? From the meaning of "blue" as "sad" we get the name "blues." In the blues the singer sings of the sorrow of life.

1. When we say a person is blue, what do we mean?
 - a. We often mean he is going to school.
 - b. We often mean he is singing a sad song.
 - c. We often mean he is sad.
2. When will a person become blue?
 - a. He will usually become blue on Sunday.
 - b. He will sometimes become blue when it is very cold.
 - c. He will often become blue when the sky is blue.
3. Why do we say "Blue Monday"?
 - a. Because it is usually cold and rainy on Monday.
 - b. Because on Monday the sky is usually blue.
 - c. Because on Monday everyone must go to work, and so they are sad.
4. In the blues, what does the singer sing of?
 - a. He sings of the sorrow of life.
 - b. He sings of the joy of life.
 - c. He sings of love for her country.

say, "He is green." They may mean he is young and has little experience. He is green like green fruit. Or they may mean he is green with envy or jealousy. That is, he is very envious of someone else. Shakespeare speaks of jealousy as "the green-eyed monster." Yes, jealousy is often said to have green eyes, but a truly jealous person doesn't only have green eyes. He's green all over!

Some people aren't either blue or green. They're yellow. This means that they have no courage. Maybe a soldier even runs away in fear from the enemy. We then say that this soldier is yellow. After the soldier is yellow, perhaps he is blue. This is because he has failed to be brave. And then maybe he is even green with envy of his braver fellow soldiers.

1. "He is green" sometimes means "He is young and has little experience."
2. Shakespeare used the phrase "the green-eyed monster" in his play "Hamlet."
3. "He is yellow" often means that he is envious of someone else.
4. When a soldier showed his courage, we may say, "He was green."
5. Sometimes a soldier can be yellow, then blue, and then green.

資料 5 2学期末テストの Hearing の問題

(NHKラジオ「学校放送」"Listen to Me!"の昭和44年10月8日、9日放送のものより)

A Colorful Lesson (2)

Let's take green next. Sometimes people